

1. 病害虫防除

～発生状況や大豆の生育にあわせて、適期に実施しましょう～

【基本防除】

薬剤区分	対象病害虫	時期	薬剤名	10a当たり薬量 (希釈水量)	収穫前日数
液剤	食葉害虫	7月下旬～8月上旬	プレバソフロアブル5	37ml (150%)	7日
	紫斑病、食葉害虫、カメムシ類	8月中旬	トライフロアブル	150ml (150%)	14日
			スタークル液剤10	150ml (150%)	7日
		8月下旬	アミスタートレボンSE	150ml (150%)	14日
粉剤	食葉害虫	7月下旬～8月上旬	マラソン粉剤3	3kg	7日
	紫斑病、食葉害虫、カメムシ類	8月中旬	トライトレボン粉剤DL	3kg	14日
		8月下旬	トライトレボン粉剤DL	3kg	14日

【随時防除】

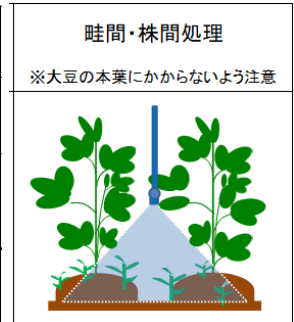
対象病害虫	薬剤名	10a当たり薬量 (希釈水量)	収穫前日数
ハダニ類 アブラムシ	マラソン乳剤	75ml (150%)	7日
	マラソン粉剤3	3kg	7日
ハダニ類	コロマイト乳剤	100ml (150%)	7日
ハスモンヨトウ	プレバソフロアブル5	37ml (150%)	7日
葉焼病	Zボルドー	300g (150%)	—

シュウレイは開花期頃に葉焼病の予防散布を行いましょう！

2. 雑草対策

～雑草の種子ができる前に除草を徹底しましょう～

対象雑草	除草剤名	10a当たり薬量 (希釈水量)	使用方法
イネ科	ポルトフロアブル	200～300ml (50～100%)	雑草茎葉散布または全面散布 収穫30日前まで、1回のみ
非選択性	バスタ液剤	300～500ml (100～150%)	畦間処理 株間処理（大豆5葉期以降） 収穫28日前まで、3回まで
	ザクサ液剤	300～500ml (100～150%)	畦間処理 収穫28日前まで、3回まで



※非選択性除草剤は、大豆や周辺作物にかからないよう十分注意して下さい。

3. 畦間かん水

～開花期頃から9月上旬まで乾燥に注意しましょう～

- 晴天日が3日以上続いてほ場が乾いてきたら、早めに畦間かん水を行って下さい。
- かん水は十分な水量を確保し、短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら、速やかに落水しましょう。ため水は湿害が発生し逆効果です。



水分不足で、大豆の葉が裏返る前に畦間かん水しましょう！

【畦間かん水の効果】

- ① 莢数の確保
 - ・ 落花・落莢の防止（青立ちの発生防止）
- ② 百粒重の増加
 - ・ 根の養水分吸収量の増加
 - ・ 光合成の促進
 - ・ 根粒による窒素固定能の維持
- ③ 品質の向上
 - ・ ちりめんじわ粒の発生防止
 - ・ 茶色のしみ状斑紋粒（高温に伴う物理的損傷）の発生防止

ちりめんじわ



しみ状斑紋

